

令和6年度第1回亀岡市環境基本計画推進会議

開催日時	令和6年7月29日(月) 午後1時～3時
開催場所	亀岡市役所1階市民ホール
出席者	田部委員、船越委員、芦刈委員(オンライン)、山脇委員(森委員の代理出席)、 大津委員、堀下委員、井上委員、橋委員、村山委員、中澤委員、伊藤委員、 法貴委員、山内幹事 (事務局3名)
欠席者	豊田委員、内藤委員、吉田委員、中川委員、川口委員、多胡委員
傍聴者数	1名
次第	協議事項 ・第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について ・亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業について 報告事項 ・令和5年度環境マネジメントシステム活動報告書について ・その他の再エネ導入に係る取組について ・「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理に係る指標案について

1 委嘱状交付

2 会長挨拶

3 協議事項

(1)第3次亀岡市環境基本計画の取組状況について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

現在、木育の取組として誕生祝い品をプレゼントしていると思うが、さらに学校給食の食器を木製にできないものか。

事務局

昨年度より、市職員の名札ケースも一部木製のものを使用するなど啓発に努めている。

今後も費用対効果等を含め、できるところから木製品の普及に取り組んでいきたい。

委員

育親学園周辺の間伐後に出た枝葉等をチップ化し、大阪万博にベンチとして提供する予定となっている。例えば学校の机なども未利用材をチップ化して製作すれば、幼少のころから木に親しむことができるのではないかな。

事務局

廃材の活用の例として、8月1日オープン予定の「環境プロモーションセンター」では、旧別院中学校の什器をアップサイクルして利用している。市域全体でそのような資源循環の取組を進めていきたい。

会長

先日始まった「イエローチョーク作戦」についてもこの場で周知してはどうか。

事務局

犬のフンの放置対策として今年度から始めた事業になる。放置されたフンの周りを黄色のチョークで囲むことでマナーの悪い飼い主に見られている意識を持たせて、持ち帰りを促す取組である。市役所や自治会事務所でチョークを渡しているのだから、ぜひご活用いただきたい。

(2) 亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業について

＜資料に沿って事務局から説明＞

委員

本事業では太陽光発電を主軸に検討されていると思うが、今後、ペロブスカイト太陽電池の実用化も見据える中で、既存の太陽光パネルとどちらを優先して導入するのか。

事務局

事業性や設置場所を総合的に検討しつつ、そのほかの先端技術も視野に入れながら様々な形態の再エネ電源をミックスしていきたいと考えている。2050年カーボンニュートラルに先立つ2030年カーボンハーフに当たっては既存の技術の活用を図るとともに、建物や土地など設置場所についても幅広く検討していきたい。

委員

ペロブスカイト太陽電池は柔軟性があり、軽量であるため、既存の太陽光パネルの設置が難しい場所にも導入ができる。保全エリアとなっている地域にも設置できる可能性があるため、計画にも入れてはどうか。

事務局

太陽光発電を主軸に検討しているが、2050年カーボンニュートラル達成に向けてはバイオマス発電等の導入も必要になると認識している。長期的にはペロブスカイト太陽電池のような先端技術も視野に入れながら、まずは2030年を目標にゾーニング等の方向性も整理していきたいと考えている。

委員

市街化区域での太陽光発電を推進する場合、例えば京都府は「ソーラーカーポート」への補助金を実施しているが、既存のカーポートでは耐荷重の問題などから設置が難しい場合もある。

また、既存の建物の屋根も同様で、耐荷重の問題のほか増築の妨げとなる懸念も出てくる。既築物件を考えた際に、ペロブスカイト太陽電池等の先端技術は大きなメリットがある。市内で実証実験をするなど積極的に検討して欲しい。

事務局

ペロブスカイト太陽電池など先進的な技術を取り入れることで、脱炭素への貢献のみならず本市独自の先進モデルの構築等が期待される。今後とも調査検討を続けていきたい。

委員

環境負荷を考える場合、太陽光パネルの発電量の推移やリサイクル率等を検証する必要があるのでは。

事務局

太陽光パネルの廃棄については国レベルの課題となっており、本市としても重く受け止めている。事業を進めるにあたって、資源循環を念頭に置くとともに情報収集に努めたい。また、太陽光パネルの発電量については一般的に年0.5%ほど減衰すると聞いている。

委員

PPA 事業を進める際には採算性も重要となるが、例えば「環境プロモーションセンター」のような市内外から多くの人が来る場所においては情報発信の拠点と捉えて取組を検討していきたい。実証実験等には、費用面をみながらになるが、市と連携して前向きに取り組みたい。

委員

近年、余剰電力の用途として売電から自家消費へと移り変わりつつある。出力抑制や送電線の容量などの要因があるが、せっかく発電したエネルギーが無駄になってはもったいないので、太陽光発電の普及に伴う需給バランスの問題も考えていかねばならない。

委員

需給バランスは大変重要なテーマである。よく晴れた昼間であれば電気の市場価格はかな

り安くなるが、脱炭素化の意識が世界的に高まる中、ゼロカーボンの電気を確保しつつ適正価格で売ることにも必要になってくる。

事務局

今後、自家消費率は高まると予測されるが、卒 FIT 電源も増える中で、地域新電力会社である亀岡ふるさとエナジー株式会社が中核となり、電力の地産地消を進めるメカニズムを検討していきたい。

委員

「環境プロモーションセンター」の太陽光発電について、昼間電力が自家消費しきれず余るようなら V2H を導入してはどうか。

事務局

様々なご意見を伺いながら同施設の活用を図ってまいりたい。

4 報告事項

(1)令和5年度環境マネジメントシステム活動報告書について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

昨年度の分別拡大に伴い、プラスチックとペットボトルをごみ出しする際にはプラスチック製の袋に入れることとなった。かごを設置していた以前と比べて環境負荷をどう捉えているのか。

幹事

現在も地元管理の中でかごを設置している地域がある。管理者(地元)と連携を図りながら今後ともかごの設置を増やしていきたい。

委員

プラスチックごみゼロを目指す上で、もう少し工夫して欲しい。

会長

回収ボックスを設置している店舗もあるので、様々な収集方法を組み合わせて総合的に進めて行って欲しい。

(2)その他の再エネ導入に係る取組について

《資料に沿って事務局から説明》

会長

内容について、市ホームページ等で案内しているのか。

事務局

「経済循環型ゼロカーボン亀岡」の達成に向けた民間提案制度については、市ホームページで公開しており、現在、協定を締結した事業者と協議を進めているところである。方向性が決まった段階でまたお知らせさせていただく。

(3)「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理に係る指標案について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

環境省がカーボンニュートラルに向けて重点対策加速化事業の選定を進めている。採択された自治体の掲げる指標が非常に具体的で亀岡市の指標と隔たりを感じる。国の求める指標と合致するよう再検討してはどうか。

事務局

本市でも重点対策加速化事業の調査検討を進めている。既に採択されている京都府の数値には亀岡市分も含まれていると認識している。同事業は事業エリアを限定するため、今回お示した指標案は市域全体を捉えたものであり、対象が異なると考えている。

今後、国の補助金や交付金の活用を検討する中で公表数値を共有させていただきたい。

5 副会長挨拶

6 閉会

以上